生き生きと輝く学校　　たのしさいっぱい！ちからいっぱい！はないっぱい！

令和８年１月７日

立入が丘小学校だより

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願いします

新しい年を迎え、皆々様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、お慶び申しあげます。旧年中は、本校教育活動の推進にご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。本年も、変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いします。

今年のお正月は穏やかな天候で、初詣等で、外出されたご家庭も多かったのではないでしょうか。私も氏神さまと家の近くの観音さまにお参りをしました。日常的に信仰心があるわけではないのですが、お正月のお参りで、心が洗われた気持ちになっています。日本のお正月の伝統文化の一つとして大切にしたいと思います。初詣以外にもお正月にはたくさんの日本文化が根付いています。生活様式が日々変化していく今の時代ですが、子どもたちには日本ならではのお正月にたくさん触れてほしいと願っています。

さて、今年は、干支（えと）の組み合わせで 60 年に１度だけ巡ってくる「丙午（ひのえうま）」の年です。丙午をめぐっては、その年に生まれた女性を「気性が激しい」等と差別する科学的根拠のない迷信があり、前回の丙午だった 1966 年には、前年よりも出生数が 25％以上減り、社会に大きな影響を与えたということです。実は、私はこの1966（昭和 41）年の生まれです。確かに自分の学年の人数は少なく、小学校では、前後の学年が６クラスや９クラスあったのに対して、自分の学年だけ４クラスだったのを覚えています（全校児童 1500 人位の大阪の小学校に通っていました）。当然のことながら、同級生の女子は「気性が激しい」と言うことはなく、他の学年と同じ様子です。受験の際には、人数が少ないので有利だと言われていたのもなんとなく覚えています（でも高校受験の際には入学定員が減らされていたのも記憶にあります）。今、振り返ると、このような迷信が、高度経済成長期の日本の世の中に浸透していたことが私には不思議でなりません。そこから 60 年が経過した今、人々は丙午をどのようにとらえているのでしょうか。少子化の現在において、丙午の影響が出ないことを願っています。60 年前は出生数が前年の 25％減少したというものの、その年の出生数は 136 万人でした。それに比べて 2025 年の出生数は統計のある 1899 年以降、過去最少の 66.8 万人程度と推計されています。この出生数の少なさには驚くものがあります。私の家の裏の公園は、子どもの遊ぶ姿がめっきりと減り、年に何回も草刈りをしなければ、雑草だらけで入れなくなる状態です。本校でも１年生が久しぶりに２クラスになり、少子化の影響が出ているのかもしれません。子どもは国の宝です。子どもの楽しい笑い声が溢れる学校や公園、地域であってほしいと思います。

『続ける』ことの大切さ

今年度は子どもたちに、『続ける』ことの大切さについて話しています。続けるということは、やがてそれは習慣に変わります。運動の習慣、勉強の習慣、日常生活における習慣等、良い習慣をたくさん身に付けてほしいと思います。そして、良い習慣が身につけば、生き方が変わると思います。こういった日々の積み重ねが運命も変えていくのではないかと思っています。